

# 令和7年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：33013

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<p>◇札幌市全体の共通指標に基づくアンケートの結果から、多くの項目で肯定的回答が微増しているものの、「自分の意見を進んで発言しようとしている。」「自分で計画を立てて勉強している。」の肯定的回答は6割を下回っている。その中で、3年生の肯定的回答が最も多く、経年変化でも肯定的回答が年々増えていることから、入学後に成長してきたことが伺える。 →地道な意識付けの成果が出てきたものとする。</p>	<p>◇全国学力学習状況調査の結果から、「解答時間は十分でしたか。」に対する肯定的回答が全国や北海道よりも多く、「書く問題は解答を途中であきらめたものがあった。」「書く問題には解答しなかった。」の肯定的回答が全国や北海道と比較しても少ない。 →粘り強く取り組めていないことが明らかであり、本校が抱える大きな課題である。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇共通指標に基づくアンケートの結果から、「自分が必要とされていると感じる。」「人の役に立ててうれしいと感じることがある。」は微増したものの、「意見の違う人とも、よく話し合おうとしている。」は昨年度と同程度であった。同様の傾向は全国学力学習状況調査の結果からも見て取れ、自己有用感を得たいが自ら発信することや協働的な学びが苦手な傾向が見られる。 →「協働的な学びの場」を意識的に設ける授業の展開や、学ぶ意義を感じさせる課題提示についての研鑽が必要である。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

## 学びに向かう力、人間性等

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
取組	<p>◇校内研修 昨今の変化の連続を受け、校内研修会のテーマは毎年見直して生徒の実態に即した実りある研修を目指す。 →『生徒が「課題設定」を自ら行う場面、「情報収集」し「整理・分析」する中で他者と関り、自分の考えを深める場面、「整理・分析」し、「まとめ・発表の場面」を設定することで、生徒が社会に関わる当事者としての意識を高めることができるだろう。』という研究仮説に基づき、課題探究的な学習（個人探究学習）の実践を深めていく。</p>	<p>◇他者との関わりの中で自らを知る学習活動 →個人探究学習（探深会）の実践の深化 他者の考えや取組を肯定的に捉え、相互評価を通して互いを高めあう学習活動の実践</p> <p>◇年2回以上のいじめに関わる道徳の実施 →学年・学級の実態に応じた課題を取り扱う授業の実施</p>

〈本プログラムの実行に向けて〉

